

「ニューパワー」を探そう

陳 迪

(中国・交換留学生・三東師範大学)

私は今年の4月に和歌山に来ました。日本に着いたばかりの頃の嬉しさは、今でもはつきりと覚えています。来日する前、「日本は一体どんな国だろう」とずっと考えていて、出発する直前には眠れない程わくわくしていたのです。

私は和歌山が大好きです。こんなに素直に言うのには、理由があります。初めて来た時、私は「一人の生活は孤独で難しい」という風に予想していましたが、実際にこの4ヶ月の体験をしてみて、外国人の私は殆ど違和感を持っていないのです。なぜかと言うと、和歌山は、私の故郷である中国の済南市に良く似ているので、私は実家と遠く離れていても故郷の一木一草は近くにあると感じられるからです。

又、約30年前に済南市は和歌山市と友好姉妹都市になりました。1983年、当時済南市に住んでいた山崎宏という日本人のお医者さんの助言で、両市は友好の交流を始めました。その証として植えられた桜の木は、平和と繁栄の世界への希望が満ちていて、のびのびと生きています。

和歌山の人は本当に優しいです。

和大的先生方も学生達も、ボランティアの先生もアルバイト先の同僚達も皆親切にして下さって、私は感謝の気持ちを一言では表わしきれません。皆のおかげで、日本語の勉強と生活能力といい、私は少しずつ進歩をしていて、楽しい毎日を送っています。

和歌山と言えば、悠久の歴史を持っているのではないのでしょうか。時代の流れと共に歴史の歯車に合わせて、和歌山に光を放ち、活躍し、どの時代の正念場にも名を残して、星のように消えて行った人が数多くいます。

源義経のために「義」と「忠」を貫き通して立ったまま戦死した名将一武蔵坊弁慶；雑賀衆を率いて、織田信長、豊臣秀吉を何度も撃退した鉄砲の名人一雑賀孫一；大阪の陣で全日本に「勇」を知らせて壮烈な最後を遂げた「日本一の兵」一真田幸村。彼らの人生はいずれも和歌山と深いつながりがあります。

和歌山の歴史を発掘すれば、かなり多くの「文物」が出てくるかもしれません。戦国時代の和歌山、すなわち紀伊の国は、近畿地方の中で最後に征服された国であり、ヨーロッパ人に「裕福な百姓達の大きい共和国」と称されて、恐れ敬われました。もしかして、当時の和歌山の人々は、日本全国でも強い抗争精神を持っていたのではないのでしょうか。江戸幕府が開かれた後、将軍の徳川家康も和歌山を重視し、自分の十男頼宣を入封させま

(済南市市役所前の冬の桜)



した。それと共に、紀州藩の五十五万五千石、全国六位の石高の奇跡が生み出されたのです。その後、紀州藩は豊富な財力を持ち、将軍になった藩主もいました。

しかし、このような輝かしい歴史を擁する和歌山も、今は危機に面しているのではないのでしょうか。現在、高齢化と少子化は日本全国の大問題だとは言え、人口が100万人を割り込んだ和歌山県においては、もっと注意を払わなければいけないと思います。このまま人口が減少し続けると、和歌山の経済や社会状況も悪化していくでしょう。

和歌山の人口がなぜ減少するかと言うと、和歌山は「ストロー効果」の法則に左右されているのではないかと思います。和歌山は大阪に近いから、大阪都市圏の影響を受けているのです。和歌山からは阪和線や南海本線を利用して、大阪中心部まで一時間強ほどかかってしまいます。無意味な通勤時間を無くすために、多くの人が大阪に住むことにしました。また、大学や企業などの誘致が順調ではないために、若者は県外流出を余儀なくされました。その上、平野部分が少ないので、交通は少し不便な所があります。

「和歌山はもっと良くなれる」と、私は強く信じています。和歌山にとって「ニューパワー」が必要だと思います。その「パワー」は、和歌山自身の内なる力です。例えば滋賀県には、安土城—佐和山城—長浜城—姉川古戦場—小谷城という流れの「戦国ツアー」があって、絶大な人気があります。歴史の面では、和歌山が負ける訳がないと思います。高野山は世界遺産として、仏教の聖地であり、戦国大名の六割以上の墓所がある場所でもあります。九度山町は、真田昌幸、幸村親子の蟄居と「真田紐」で世間に知られています。それならば、「和歌山城—雑賀城—根来寺—九度山町—高野山」というようなツアーがあっても良いのではないのでしょうか。

和歌山は果樹の王国といわれ、果物が物凄く美味しいです。梅を始め、色々な果物の産出量が全国一位を占めています。ですから、農産物をもっと輸出したら、きっと予想外の結果が出てくると思うのです。

和歌山には、潜在力があります。未来を握っている和歌山は、着実に進んでいます。和歌山の力を私は信じています。

後半の留学生生活を、私は大切にしなければなりません。もっと日本の文化を体験して、中日交流の架け橋になるように頑張っていきます。もしチャンスがあるなら、もう一度和歌山に来たいと思います。もう一度優しい人達に会えるように、もう一度美味しいみかんやお寿司を食べられるように…。